

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200143		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	だいこんの花肥田瀬		
所在地	岐阜県関市肥田瀬2719番地1		
自己評価作成日	2019年9月4日	評価結果市町村受理日	2019年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2190200143-008&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬110番地		
訪問調査日	2019年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の自己選択、自己決定を日々の生活の中での最重要点とし、職員はそれに沿ったケアに取り組んでいる。
 個別レクリエーションについては、本人のやりたい事、行きたいところ、食べたいものを聞出し、可能な限り叶える為に地域の方、家族の方の協力を受け、実現できるようにしています。
 個別の残存能力を低下させないように、現実には職員だけが受け止め、利用者様には支援を受けながらも出来る事をやっていただき、日々活力を持ってもらえるよう担当職員が毎月のミーティングでよく考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家庭の延長と考え、一人ひとりのペースを尊重し要望を叶えることで、その人らしく生活できるように支援している。家族とのコミュニケーションを大切と考え、事業所の取り組みを理解してもらうように取り組んでいる。事業所の行事に地域の方が多く参加があり、マッサージチェアや雑巾の寄付、旬の野菜をいただくなど地域に受け入れられている。職員は、栗ご飯やぶどう、利用者が散歩中に摘んだつくしなど季節を感じられる食事を提供している。利用者の要望やいただいた野菜があるときは臨機応変に献立を変えている。管理者と職員は利用者と向き合い良好な関係を保ち、和気あいあいと生活を送れるよう努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である『明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしよう』が日常生活中ではぐまれるよう日々の関わりを大切にしながら業務にあたっている。	管理者は、入職時や日頃から気になったときは理念について説明している。職員は事業所の生活は家庭の延長と考え、利用者のペースに合わせ、要望を叶えることが出来るよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の地域の方への挨拶、隣の喫茶店、近隣の理美容院を利用している。事業所で行う流しそうめんやふれあい祭りなど交流を深めている。自治会に加入し、地域の行事に参加できる時は交流をはかっています。	事業所の行事を自治会の回覧板で知らせ多くの参加者があり交流している。地域や高校生のボランティアを受け入れている。地域の方よりマッサージチェアや雑巾、旬の野菜をいただくなどの関係が作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入したことで利用者と地域の交流(主に地域清掃)ができるようになりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っています。行事の実施報告、予定連絡など意見の交換をしております。	地域の代表者より地域行事の情報を得て防災訓練や作品展に参加している。会議で事故報告を行ったところヒヤリハット報告書の積極的な活用をアドバイスされ再度職員に周知徹底した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市町村とは常に関わり合い、最新の情報を得るようにしています。また、運営推進会議にも参加して頂き、こちらの様子等を伝え、意見を頂いています。	書類を提出する時や空室が出来た時に市の担当者を訪問し相談している。定期的に介護相談員を受け入れている。包括支援センター主催の会議に出席し市の担当者と情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルを事業所として作成し、日頃から職員同士で「これは拘束に当たらないか」確認しながらケアに取り組んでいます。	管理者は、入職時や日常的に身体拘束を行わないことを伝えている。会議等で実例を上げて具体的に職員に説明している。職員同士声を掛け合いながら拘束しないよう取り組んでいる。職員に資料を配布しているが、勉強会の実施が確認できなかった。	身体拘束について定期的に学ぶ機会を計画し、正しく理解できるように取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の教えを受けたり、日頃から言葉使い態度など注意しています。ミーティングなどでも話し合い防止に努めています。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象の利用者はおりませんが、制度は知っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・利用契約をすべて読み上げ説明させて頂き、不安な点や質問に答え、家族の理解を得た上で署名等をいただき契約につなげています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃から信頼関係が築けるよう会話を多くしその中での意見を見逃さないよう努めています。家族の来訪時には意見要望などを伺い利用者の生活や運営に反映するよう努めています。	家族の訪問時に生活状況を伝えて意見や要望を聞いている。写真と近況報告を送って意見や要望を聞くこともある。家族から歩かせたいと意見を受けて散歩や喫茶店など外出する機会を増やした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時を、またはそれ以外のいつでも職員の意見交換をし、事業所運営に反映しています。	管理者は、ミーティング時や仕事の合間など声を掛けて話を聞いている。備品の購入やレクリエーションなど職員の意見を取り入れている。職員が希望する研修会に事業所が費用を負担して参加することができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善の一部に査定部分を設け、職員のやる気もでてきています。勤務表作成時に、個々の事情を考慮し無理のない勤務表を作成しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修案内を事務所に掲示し、一人一人のケアの実績と力量を把握し、その人にあった研修も勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他の事業者との交流はありますが、職員には勉強会を勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の情報であるセンターシートを活用しながら、その方の思いを傾聴・受容することで、信頼関係を築き安心して生活していただけるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の思いと並行して、家族の思いにも耳を傾け、ここでの生活に不安がつかないように、面会時や電話等で利用者の日常の様子を報告し、信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階でまずどのような支援がその方や家族に必要なのか、聞き取り等から見極め支援に繋がっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が一方的にする、されることのないよう、家事全般を利用者様と一緒にし時には知恵を出して頂き、日々やさしい声かけを心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には生活状況(介護記録見て頂く)利用者の口にされる思いをお話し、利用者様にとって一番良い支援は何か常に考え、共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は、センターシートや日々の会話の中から把握し、その方の来訪時には気楽に面会していただけるよう努めています。	家族に協力を依頼して馴染みの店に出かけている。知り合いの方の訪問があったときに再訪をお願いしている。携帯電話を持ち込み家族に電話する方もある。年賀状を出せるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活や関係性を把握し、利用者同士がなるべく関わって色々な作業に取り組み、楽しい雰囲気の中で日々過ごして頂けるよう努めています。職員が間に入り、会話の橋渡しをし一人一人が孤立しないよう支援しています。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するとその後の関係性は続く事はできませんが、契約終了時には「何かあればいつでもご相談下さい」との言葉をかけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話から、希望や意向の把握に努めています。外出希望には個別計画を実施しています。	日常の会話から思いや意向を把握している。表情やしぐさを見て職員から声を掛けて聞くこともある。困難な方には発する言葉から職員間で話し合いその奥にある思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にセンターシートに記入してもらい、定期的に更新しています。わからない点や、確認したいことは、面会時に聞くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、申し送りをし、体調などの変化があった時はその情報を全員で共有し、安全に過ごせるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に職員が担当者としてつき、年に数回モニタリングを行っています。それを介護支援専門員が新たに介護計画に反映させています。	担当する職員が定期的にモニタリングを行っている。家族の訪問時や電話で計画を説明し意見を聞いている。ミーティングにて話し合い職員の意見を反映している。状態が変化した場合はその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は記録に残し、職員間で情報を共有しながら個々の利用者の支援に役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の形態や入浴方法など、個々の要求またはその時々状態に併せてより良く、サービスが提供出来るように取り組んでいます。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力を得て、一時帰宅をされ庭などの草むしりをされたり、馴染みの美容院に行かれたりと地域交流なども楽しまれております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は設定していますが、入所前からのかかりつけ医を変えることはせず、そのままの関係を保ってもらっています。	契約時にかかりつけ医を継続できることを説明している。かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が同行する場合は状態をメモで渡している。家族に結果を確認したり、直接かかりつけ医に確認したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師がいますので、常に相談し、指示を受け適切な初動体制がとれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった時点で、出来るだけ早く病院相談員に経過を聞き、現状、退院のめど、退院後の生活についてなど確認し、受入体制を整えています。受入が難しい方には病院相談員とともに家族に報告をし、家族や本人が困らなようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアとしては行っていません。「できるところまでやる」という形をとっています。	契約時に事業所の方針を説明している。状態が変化した時は次のサービスに繋がるように事業所から情報を提供している。重度化した場合は、本人、家族と相談しながら出来る限り意向に添える様に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルとしては事業所においてあるが救急処置の訓練はしていない為今後全員で勉強していきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。今後、地域の方にも声かけし、参加して頂きたいです。	昨年12月に避難訓練を行って以来、夜間想定も含めて訓練を行っていなかった。ヘッドライトなど備品は事業所に備蓄しているが、食糧は少し離れた本社に備蓄している。	災害に備えて定期的に訓練を行って欲しい。また、事業所に備蓄できるように検討して欲しい。運営推進会議等で話し合っ地域との協力が得られることを期待する。

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と思いをもち続け、常に言葉使いに気を付け、他の方から聞かれても問題の無い言葉、理解していただきやすい言葉を使っています。	管理者は、利用者を尊重した声掛けを指導している。ミーティング時や気付いた時に言葉使いや声の大きさを注意している。職員は、人生の先輩として友達感覚とならないように気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や行動で本人の希望や要望が出た時は、実現できるように関係者に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まった時間に決まった事をするのは少なく、本人のペースで過ごして頂けるようにしています。10時のお茶の時間に雑談の中で今日一日何をしようかと利用者様と相談することもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には着る服も本人様に選んでもらっています。認知症の進行によって自己選択、自己決定が難しい方に関しては職員が支援し、おしゃれをして喜びを感じるということも感じて頂けるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっていますが、利用者様にも食べたい物を聞いて簡単にメニュー変更ができるようにしています。 また、特に女性利用者様には調理から後片づけまでその方が出来る事を職員と協働しています。	野菜をいただいた時や要望があった時に臨機応変に献立を変えている。ぶどうや栗ご飯、つくしなど季節の物を取り入れた献立としている。音楽をかけて会話しながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの利用者の個別の状況を把握し、医師の意見も参考にしながら支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、2週間に1度歯科医の往診、歯科衛生士による口腔ケアを行っています。歯科衛生士には口腔内の清潔保持についてアドバイスももらっています。		

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には定期的にトイレ誘導をしています。紙パンツやパット・オムツなどは最小限の使用に留め、トイレでの排泄を勧めています。	出来る限りパット等を使用しないでトイレに誘導することを心掛けている。職員は排泄チェック表を確認しながら耳元で声を掛けるように努めている。職員間で話し合って布パンツに改善された方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や個別レク・食事や飲み物で便秘予防に努めているが、主治医と連携し下剤・整腸剤を使用している方が数名おります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一日おきではあるが、希望は本人によります。湯温・時間なども本人の希望をある程度聞き、入浴を楽しんでいます。	入浴日は決まっているが季節や要望により変更している。入浴順や湯温、入浴時間など出来る限り希望に合わせている。歌と一緒に歌ったり、浴槽内で運動をしたりして楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に寝る時間が長くないように配慮することはありますが、その方の体調等により日中も休んで頂くこともあります。不眠については主治医に相談しながら対処しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に主治医、薬剤師と連携をとり情報交換や相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的には好きなように過ごして頂くようにしています。毎日必ず何かがあるわけではないため、普通の日常生活を送りながら利用者様がどこかで生活に張りがでるよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別レクでは好きな所へ好きな事をしに出掛けています。本人の希望が中心となり家族や地域の方に協力をして頂いて実現しています。	職員が買い物に出掛ける時に利用者に声を掛けて一緒に出かけている。喫茶店に行きたいと言われた時は一緒に行っている。急に外出を希望される場合は、一緒に散歩に出かけたり、ドライブに出かけたりしている。家族の協力を得て帰宅する方もある。	

だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの意味を理解することは大切ですが、紛失を考え、購入については事務所の立替金で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族に電話をし話してもらったり携帯電話を所持している利用者もみえ、自由に家族と連絡をとっていらっやいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は毎朝掃除をして綺麗に保ち、カレンダーや壁飾りを取り入れ、季節感を出して居心地の良い環境を保っています。	職員が地域のお祭りの飾りをもらってきてリビングに飾っている。利用者と一緒に作った季節のカレンダーを飾っている。散歩に出かけた時に草花を摘んできて飾ることもある。職員は、リビングの天窓をこまめに開け閉めして換気や温湿度に気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決められていますが、ソファでは利用者同士で会話を楽しめたりとそれぞれの時間を過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた愛用の身の回りの品を持参して頂き、本人様が落ちつける空間を心がけています。	使い慣れたテレビや衣装ケース、布団などを持ち込んでいる。位牌を持ち込んでいる方もある。馴染みの人形や作品などを飾っている。職員は快適に過ごせるように換気には気を付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に取り付けられた手すり以外にソファや机、椅子などが動線近くにあることにより、声かけと見守り、付添いで生活できるようになっています。必要な表示は大きく表示しています。		